

平成15年9月1日
創刊号

禪文化

洞上墨蹟

一義書



万葉浦岫園

馬峰三木

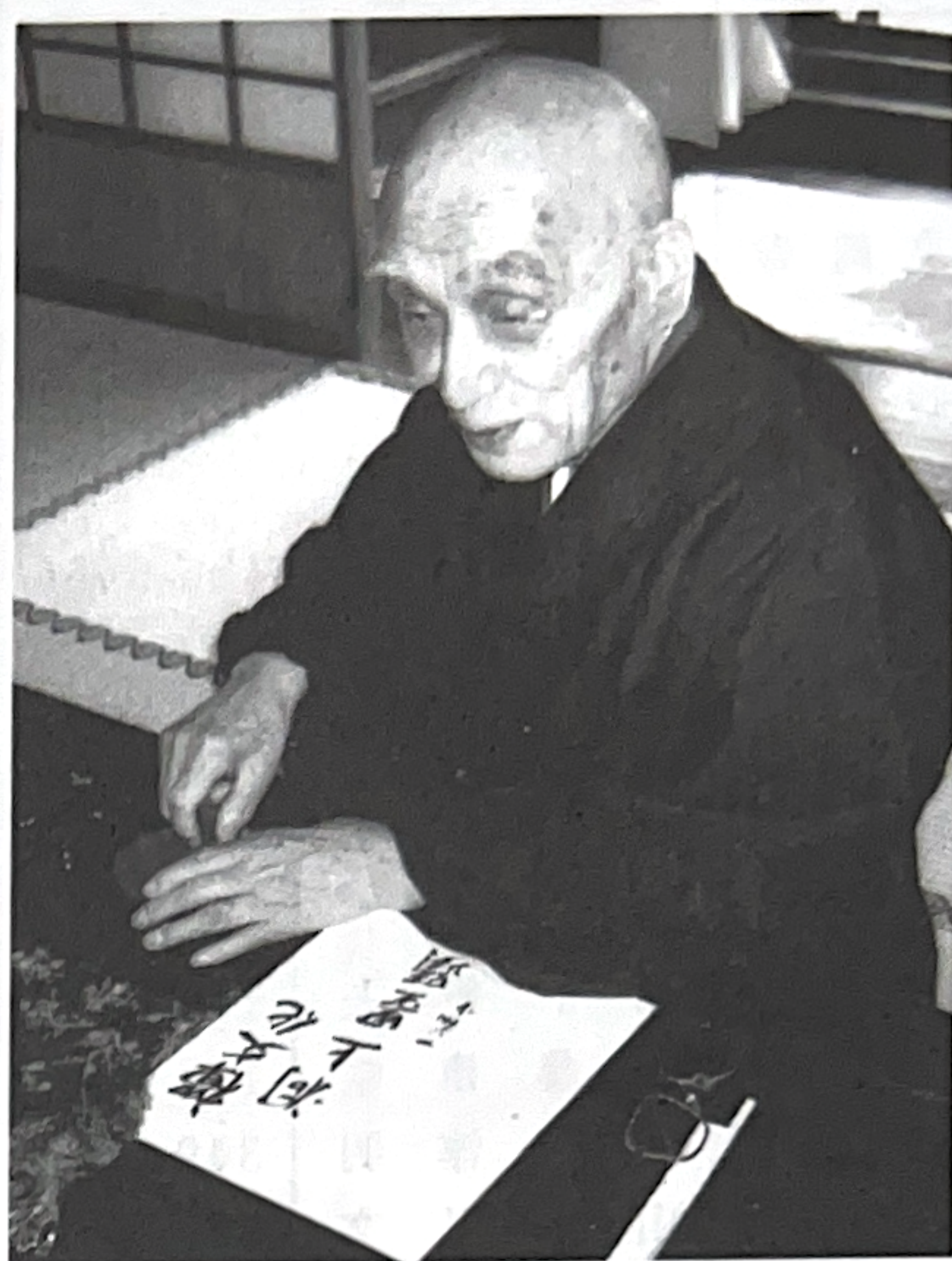
百福納心苑

目 次

遺風を慕う	……	会長 田中 一義	1
洞上墨蹟研究会名簿	……		2
発会式報告			
中外日報より	……		3
文化時報より	……		5
曹洞宗筆痕史における 風外和尚の位置	……	吉岡 博道	6
会員紹介	……		17
創刊号によせて			
墨蹟には心がある	……	田中 一義	21
私と墨蹟との格闘	……	清水 琢道	22
墨蹟との出会い	……	山口 祐哉	24
墨蹟との出会い	……	正木 良観	26
禅文化の敷衍を	……	山岸 弘文	27
いのちの漲り	……	斎藤 筍堂	29
墨蹟余談	……	横山 和弘	31
良寛関係の遺墨考察	……	林 強一	35
大而宗龍との出会い	……		
古袈裟	……	鈴木 潔州	37
座談会「宗門の墨蹟を語る」	……		38
書画屋探訪①	……	熊野 山人	42
秘蔵の一品 第一回 墨蹟のご縁	……	松倉 太鋭	44
禅僧筆痕物語①	……	小林 將	46
巨海東流和尚			
玉走盤	……		48
会員著書紹介	……		50
本会推薦書籍	……		50
総会御案内（善福寺拝登）	……		51
次号予告（月舟宗胡禅師特集）	……		52
会員募集・活波瀾	……		53

遺風を慕う

会長 田中一義



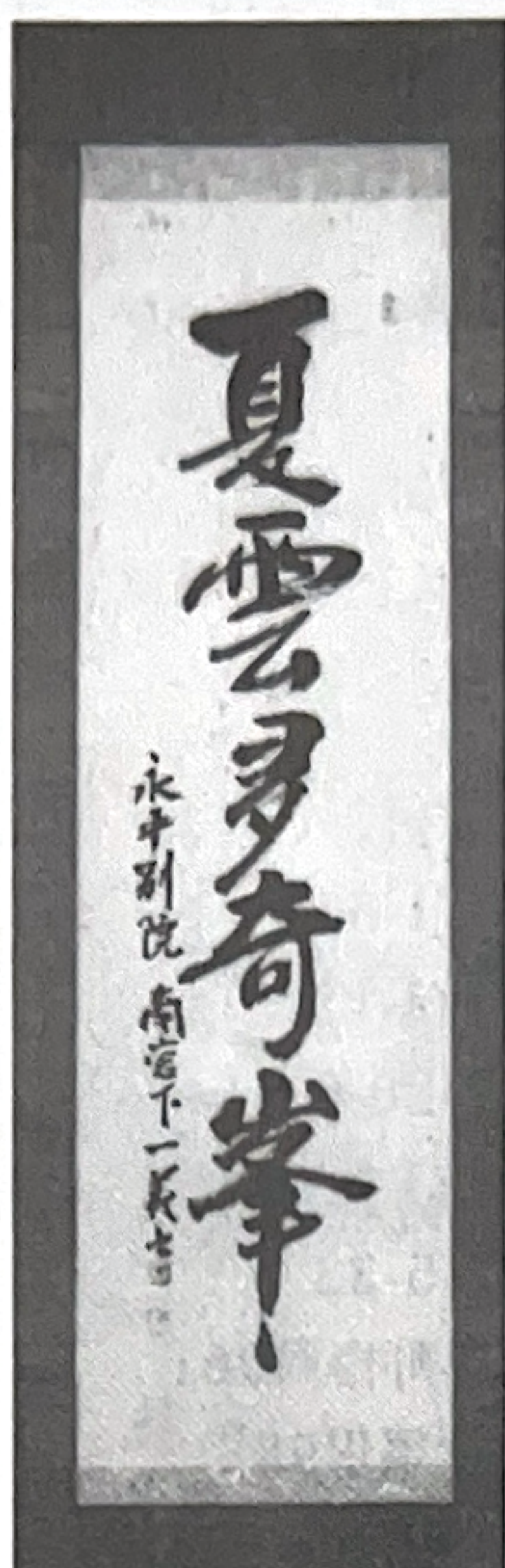
会長近影

此の度、吉岡師、鈴木師等の発願により、有志の方々相集い、「洞上墨蹟研究会」を結成することになりました。「書は人なり」と言われるごとく、一幅の書には筆者の境涯が、餘すところなく現れて拝見する者に迫って来る。此の度、「洞上墨蹟研究会」の結成に参加された皆さんは、残された遺墨を通して書かれた祖師方の境涯を慕い、その遺風を慕う方々である。

私が祖師方の遺墨に関わりをもち、集め始めたのは終戦、復員して間もなく、今から五十年位昔に遡る。

新宿、花園神社の前を通りかかったとき、道路に筵を敷いて色々な物を並べていたなかに、「最乗石禅」と落款のある新井石禅禅師の、小品ながら一筆描きの観音さまの画賛があり、道路上にあり勿体なく思い、確か一円五拾銭で購入したのが始まりである。

以後、洞上の祖師方の芳墨を集め、その遺風を慕っている次第です。



夏雲奇峰多シ (出典 明覚禪師語録)

(会長筆痕)



洞上墨蹟研究会